

GEIDAI DESIGN PROJECT

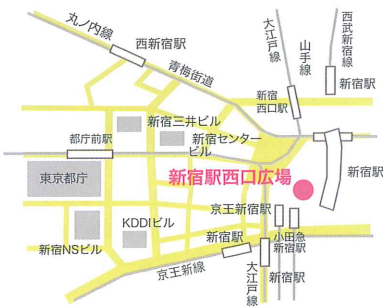
藝大デザインプロジェクト成果発表展

都営交通をテーマにした藝大生によるデザイン提案

2009.10.18 Sun - 20 Tue

会場 新宿駅西口広場 イベントコーナー

開催時間
18日 13:00～20:30 プレゼンテーション 13:30～16:30 ※ プレゼンテーションは定員制となります。
19日 8:30～20:30 連絡先 東京都交通局総務部お客様サービス課 03-5320-6026
20日 8:30～15:00 東京藝術大学美術学部デザイン科 050-5525-2206



アクセス
都営大江戸線「新宿西口駅」「新宿駅」
JR、京王、小田急、東京メトロ線「新宿駅」

東京都交通局

東京藝術大学



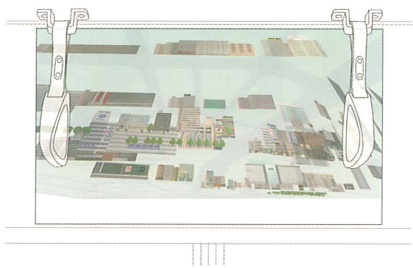


東京藝術大学デザイン科では2006年度より大学院修士課程1年生、約30人の授業として、専門領域を横断したチーム編成によるデザイン開発プロジェクトを立ち上げました。この「デザインプロジェクト」はグラフィック、プロダクト、空間・環境などの既存のジャンルを横断したチームメンバー編成により、複合的なデザイン開発を行うとするもので、トータルなデザイン成果を高め、かつ深化することを目的としています。4年目となる今年のデザインプロジェクトは、「東京都交通局」がテーマです。地下鉄、バス、新交通という都内に張り巡らされたインフラ群、それにまつわるグラフィック類、プロダクト類、情報、システム等々、「東京都交通局」が抱える膨大なデザインフィールドのなかから、学生達が発見した独自の視点からデザイン提案を行います。学生達が半年間取り組んだ成果をご覧ください。

企画1

イマドコ

地下鉄車両内でのビジュアルナビゲーションの提案です。地下鉄の問題点として「現在地を把握することが難しい点」「地下の暗いイメージ」等が挙げられます。それらを払拭するために、車内にディスプレイを設置し、地上の状況を表示します。普段意識しない地上の地理関係を知らせることで「イマドコ？」という乗客の素朴な疑問に答え、見た目の明るさと共に、安心感を与えます。それと同時に沿線の広告媒体として機能させることができます。今回は「東京との名所を通り、様々な街の特徴が見えてくる」「首都圏沿線イメージ調査から、成長力・将来性に期待度の高い」大江戸線を対象路線としました。(特許出願中)



企画2

ちかてつどうぶつえん

都営地下鉄ほか様々な交通機関を運営している東京都交通局。さらに上野動物園内にあるモノレールも管理しているというを受け、上野動物園と都営大江戸線のタイアップキャンペーンを提案します。「ちかてつどうぶつえん」というタイトルのおり、キャンペーン期間中には地下鉄に動物たちがあふれます。その正体は子供たち。立体視レンズ付きの動物のお面(=地下鉄、モノレールの乗車券+動物園の入場券)をかぶり、ホームや上野御徒町駅からのびる地下通路に現れる様々な動物たちを覗き見ながら、いざ動物園へ！目的地だけではなく、そこに行くまでの道のりも楽しめる。それが「ちかてつどうぶつえん」の魅力です。



企画5

TODAN



現在、都営大江戸線では最深部の六本木駅で地上から約42メートルの深さがあり、毎日地下深くに潜ることに対して無駄を感じている人が多いと思います。実際に新宿駅と六本木駅の間を二ヶ月の間毎日往復すると、なんと富士山を登頂する距離を移動している事となります。そこで、我々は大江戸線の階段を山に見立て、PASMOカードを使用した仮想の登山「TODAN」を提案しました。これは階段にPASMOのタッチポイントを設置して登った距離を記録し、もし実際の山であれば現在どここの地点に居るのかを表示するシステムです。これにより、階段を登るための目的や挑戦の場を提供し、毎日の大江戸線の利用をより楽しめるように出来ればと考えています。(特許出願中)

企画4

myつりかわ展

新しい公募展「つりかわ展」を新宿駅で開催します。電車は都市部で生活する人々の主要な移動手段として、私達の生活を支えてきました。しかし、それにより電車自体が移動という機能に特化してしまう状況が発生し、公共交通機関特有の殺伐とした車内空間が出来てしまったことも事実です。このようなある種特殊な環境を持つ空間に、私たちは大きな可能性を感じています。例えば食卓に花を添えるように、殺伐とした車内に彩りを加えることで、そこにある景色を少しでも楽しくする事ができるかもしれません。今回はその試みとして「つり革」に焦点をあて、自由なつり革のアイデアを広く募集しました。



企画3

イチョウさん

都営地下鉄のイメージ。それを作り上げるのは、日々大勢の乗客と接している駅員に他なりません。駅員がもっと思いやりの気持ちを持って乗客に接することができれば、都営地下鉄だけでなく駅や駅員そのものの印象までも良くなるはずです。そこで私たちは、乗客を思いやる気持ちにあふれた駅員である「イチョウさん」というキャラクターを作りだし、そのイチョウさんの活躍する姿を描いたユーモアあふれる「接客マニュアル」を企画しました。さらに、その思いやりの接客を日々実行してもらうためのアシストとしてグッズを作り、マニュアルとグッズを一まとめた「イチョウさんセット」を都営地下鉄の新人駅員に配布することを想定しています。

